



磨光

令和7年12月4日(木)
三豊市立本山小学校
No. 20
発行者：中田 祐二

「人生はマラソン」。長い道のりを、地道に進んでいく大切さを、多くの先人がこの言葉に込めました。時間をかけて歩み続けたからこそ手に入れられるものがあります。昨日のマラソン大会の終わりの挨拶では、雲梯や鉄棒、九九、ボランティアなど、いろいろなことに頑張る子どもたちを取り上げ、「こつこつは勝つこつ」という言葉を、教頭から子どもたちに贈りました。歩み続ける気持ちは、マラソンに限らず、次の頑張りに続く心の栄養と自信になるとも伝えました。

マラソンは一人じゃない

「走る子どもたちから受ける感動」と、それを支える友達や家族の「応援から受ける感動」と、昨日のマラソン大会は、二つの感動に満ちていました。

走る子どもたちから受ける感動は、これに尽きます。再び教頭の終わりの挨拶から。

そして今日。みんなの頑張りが、いつもよりも、もっときらっと光っていました。

去年は、練習も本番も途中であきらめていた子も、「マラソンは苦手」と言いながら、業間休みも体育の時間も手を抜かずに走っていた子も、どの子も、ゴールまで走り切りました。

走るのが好き、きらい、得意、苦手、いろいろな人がいるけれど、全校生の頑張りがいっぱい詰まったマラソン大会になりました。

もう一つの、応援から受けた感動。

低学年が走り始めると、空をぐるりと回った声が運動場を包み込むかのような錯覚にとらわれました。2階と3階のベランダから届いた「頑張れ！」の応援でした。

そのお礼でしょう。上級生が走るときには、1・2年生は、教室前のベランダからかわいい声援を贈りました。



左の写真は、出走前に円陣を組む6年生です。

マラソンは、孤独な自分との戦いと思われますが、応援や団結といった「みんなの力」が、走る推進力です。



子どもたちに。

人生がマラソンだとしたら、今、どのあたりを走っていると思いますか？きっとまだ、下の写真のあたりです。力を蓄え、スタートラインに立って、「頑張るぞ！」と意気込んで、きっといい未来が待っているとわくわくしているところ。

さあ、今日からスタートです。

「ようい、どん。」

